

理論と技術の活きる関係

特集にあたって

作業療法は、生活を支えるうえで保健医療福祉の幅広い領域で評価を得てきた。しかしながら、作業療法が対象とする人の生活の幅広さや、先輩方から受け継いできた領域の広さに追いついていないと言いがたく、いまだ理論と技術はその発展途上にある。

本誌の2013年6月増刊号『OTの臨床実践に役立つ理論と技術』では、現代の多様化したニーズの現場において、どのような理論と技術が展開されているのか、領域別に概念とその応用についてまとめられた。これら数多くの理論を次世代のOTが積極的に活用し発展させるために、本特集では、理論と技術に関してどのような整理が必要なのかを問いかけると同時に、同一事例に対して複数のOTから介入方法を提案いただき、その枠組みの共通部分を確認する。

この過程は、今自分が行っている作業療法が、揺るぎない理論という基盤の上に成り立っていると自覚しながら、新しい技術という建物を建築する作業に似ている。また、揺るがない地盤を見つけてその上に建物を建築することを復興や発展と呼ぶなら、揺るぎやすい地盤に壊れにくい建物を建築することもまた高度な復興・発展の技術といえるだろう。本特集をご一読いただくことで、現場のOTの発想が自在に広がり、新たな技術の発展への参考になることを願っている。

(荏山和生)

企画担当

荏山 和生 (佛教大学, 作業療法士)

中村 春基 (兵庫県立リハビリテーション中央病院, 作業療法士)

宮崎 明美 (旭川荘 みどり学園, 作業療法士)